

エシカル消費のすすめ

私は食べ物の好き嫌が多い。給食の献立表に苦手な物があると、がんばって食べようか、給食当番にお願いして少な目にしてもらおうかと、朝から悩ましい。感謝して残さず食べる、これは食品ロス削減を折にふれて学習している私たち中学生にとって常識だ。それに、残したり少なくなってしまうのは、やはり後ろめたい。故に「今日の給食は完食できるか否か」は重要検討事項なのだ。

朝、献立表をチェックする。『和風ハンバーグおろしソース』：私は大根おろしが苦手だ。「はあ、大根おろし、どうする私！」ため息をつく私に姉が一言。「エシカル足りてないんじゃない？」「エ、エシカル!？」聞き返す間もなく姉は続ける。「サステナブルな社会を実現する

ための具体的な目標がSDGs、そのSDGsを実現するための企業や個人の行動規範となるのがエシカル。つまりSDGs実現のために持つべき道徳心や倫理観ってことね。企業やお店はエシカル商品を次々出してるし、給食作ってくれる人たちだってエシカル消費を実践しているはずだよ。「私には倫理観がないってこと？」私の不満気な応答に姉は「そう思われたくないなら好き嫌いで、自分にできる社会的課題解決の一步だ、ぐらいに思って、大根おろし食べてきなさいよ。美味しいんだし。」と言って出かけてしまった。

大根の前に私がこき下ろされちゃったな…と悲しい、思い切って一口。「!?この大根おろし、甘い。食べれる。っていうか美味しい。」私は中学校生活始まって以

来の最速のスピードで給食を完食した。でも「なぜ?どうして?あま、いも気から?」いろいろ考えているうちに姉の言葉を思い出した。作ってくれる人たちがエシカル消費を実践している：献立表をよく見ると『ハンバーグの大根おろしには地場産野菜を使用』とある。地産地消もエシカル消費のひとつだ。

「エシカル。」意識してみると身近なところでたくさん発見できるのに驚いた。コンビニに行くと、食品ロス削減のためのエシカルプロジェクトのポップが目飛び込んできた。すぐ食べる人には手前から商品を取ってもらえるよう、販売期限が迫った商品に目印のシールが付いている。購入するとポイントが付くそう。家では弟が『もぐもぐシール』なるものを集めていた。近所のスーパーで賞味期限が迫ったお菓子などに付いていて、集めるとエコバッグがもらえるらしい。いずれも商品棚の手前にある食品を積極的に選ぶ「てまえどり」でエシカル消費の実践を促す取り組みだ。いつも文房具を買う駅前の雑貨店では、レジの横にフェアトレードのチョコレートとコーヒーが置かれてあるのを発見した。人・社会・環境に配慮して作られたものであることを示す認証ラベ

ルが付いている。安さや便利さよりも倫理的に考えて正しいと思うことを基準に購入したい人には目印になり、エシカルな消費行動を後おしする。ところで、大根おろしがなぜあんなに美味しかったのか。私の好き嫌いをふきとばした地場産の大根について調べてみた。土壌汚染や生態系の保全にも配慮している農家さんが作る大根は、化学肥料や農薬を使わない有機栽培で、生でも安心して食べられるように心を込めて作られたエシカルフードであった。

環境への思い、世界中の人たちへの思い、未来の地球への思いをこめて生産する人、それを選び調理する人、そして残さず食べる私たち。「思い」も「おろし」も残さずに。こんな健全な「食」を日常的に実現してくれる学校給食に感謝して、そして私のエシカル不足を指摘した姉にもちよっぴり感謝して、今後もエシカル消費を実践していこう。

そういえば、大根おろしが苦手な友達が二人ぐらいたっけ…。『和風ハンバーグおろしソース』の日には声をかけよう。「Let's エシカル消費。」